

伊勢街道

散策マップ

明星

みょうじょう



1 安養寺
明和町まちかど博物館
TEL 0596-52-5548
鎌倉時代に創建。県指定文化財(古文書)が多く残っている。



2 明星水
江戸時代参宮者で賑わった明星茶屋の発祥地にあり、日本三霊水に数えられたこともある。



3 鬼瓦に注目!
街道筋では珍しい戒(えびす)・大黒の鬼瓦。



4 そうめん坂
「そうめん坂」は、明星茶屋のかかりに位置し、そうめんやうどんを出す店が何軒か並んでよく繁盛していた。



5 呑海(どんかい)工房
明和町まちかど博物館
TEL 0596-52-5576

神宮の桶を使ったカエルや、根付、木彫りを製作展示している。



6 転輪寺
明和町まちかど博物館
TEL 0596-52-0829

室町時代の創建で、本教寺といったものを元禄十五年転輪寺と改められた。



7 庚申堂(こうしんどう)
6本手の青面金剛の姿が庚申様としてまつられている。

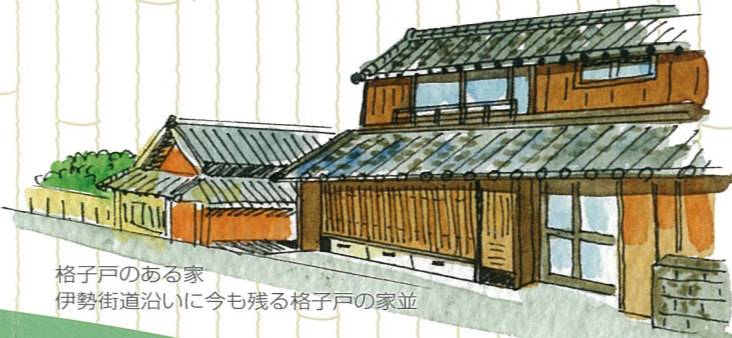


10 三忠(擬革紙資料館)
明和町まちかど博物館
TEL 0596-52-0701

伊勢神宮参拝客の代表的な土産、伊勢の煙草入れに関する資料を一般に公開している。見学は予約制。



11 田丸城の門
田丸城の取り壊しが行われた明治初期に、三忠の裏門に移築された。塙重門(へいじゅうもん)と言われている。



格子戸のある家
伊勢街道沿いに今も残る格子戸の家並



■お問い合わせ先
史跡齋宮跡・伊勢街道まちづくり会事務局
(明和町役場 齋宮跡・文化観光課内)
TEL 0596-52-7126

※本ガイドマップのイラスト・写真・地図の無断転載を禁じます。



8 史跡水池土器製作遺跡
はじき(土師器)製作にかかる土器焼成壇・掘立柱建物・竪穴住居・粘土溜・井戸などが見つかっている。



9 御婆堂(おんばさん)
この地に祀られた閻魔(十王)さんから起こった名である。



12 弘法さん
伊勢街道が開かれた時代に祀られ、旅人の道中の無事と処々の願い事を祈ったと思われる。



伊勢街道 齋宮～明星

約6km

伊勢街道は江戸から明治にかけて伊勢神宮へのおかげ参りの道として大いに賑わいをみせ、今でもその面影が随所に残っています。

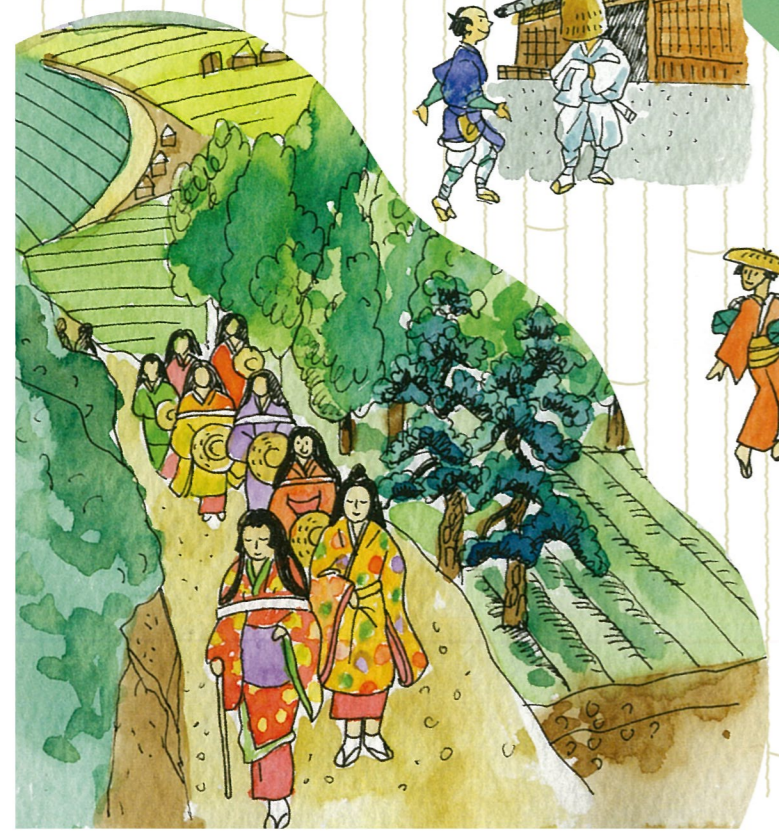
至松阪

齋宮

至国道23号

至明星

至至城インター



1 祓川橋 (はらいがわばし)
明治13年頃には仮橋があり、橋銭を徴収していた。(人は2厘、人力車は6厘)



2 雁木の残る家
雁木と格子戸と馬止の3つがそろっている。



3 御殿(ごてん)と呼ばれた家
田丸城主久野氏に仕えた御典医の旧屋敷。



4 屋根の上の鐘旭(しょうき)さま
魔よけのために作られた瓦像。



5 八脚門跡
齋宮跡の発掘調査で確認された唯一の門。その規模は神宮の外玉垣御門に匹敵する。



6 江戸時代中期の門
古風な瓦ぶきの門。江戸時代中期の建築である。



7 史跡全体模型
史跡全体を10分の1に縮小した野外模型。方格地割内に、齋王の御殿などを復元。



8 明治天皇行幸の家
江戸後期の家で、明治2年～13年の天皇行幸時の休憩に使われた家。



9 竹神社
齋宮内院の跡地に、明治44年に旧齋宮村にあった12社の神を合祀してできた神社。



10 六地蔵石幢 県指定有形文化財
室町時代後期の作、灯籠ではなく、六面に地蔵の姿が刻まれている。

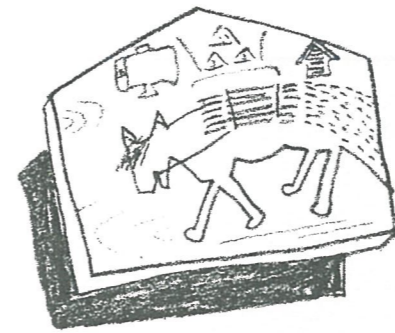
齋宮跡・伊勢街道のガイドいたします。

齋宮(いつきのみや)ガイドボランティア
TEL 0596-52-7805 (いつき茶屋内)
TEL 0596-52-0055 (明和町観光協会)

福寿院跡
 天正四年北畠氏滅亡時、その家臣加藤清左衛門佳方が菩提寺福寿院をここへ移し、弔ったといわれている。正徳五年住職誠善が加藤家の隠居を買受けて飯堂とし、寛政三年章誉の時に茅葺の堂を再建。

ひとくちばなし

絵馬殿跡
 謡曲「絵馬」の原形となったと伝わる齋宮の絵馬堂。大晦日の夜に掛けられる絵馬の柄でその年の稲や綿の豊・凶を占った。絵馬堂の小祠は明治まで現存していた。
 エンマ川(齋宮跡東限の堀) 楠の森神社跡



竹茗舎(ちくめいしゃ)
 平安時代に「竹の都」と称された明和町齋宮の土地に因んで竹の文化を発信している。館の内外、竹笹尽くしの「竹の博物館」。

明和町まちかど博物館
 TEL 090-1566712001

たてば茶屋
 竹川の「たてば茶屋」は、江戸時代に、街道を往来する駕籠や荷馬等の入夫が休息や交代をしたところである。

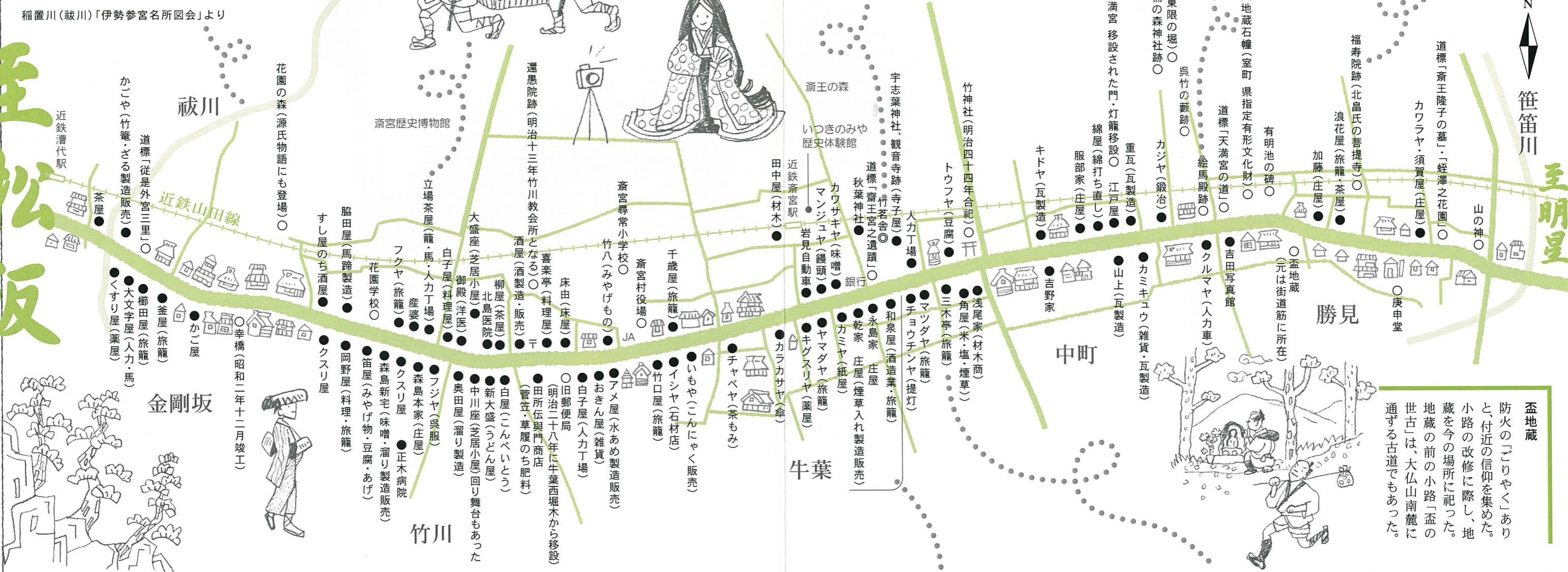


稲置川(祓川)「伊勢参宮名所図会」より

至松阪



至明星



盃地藏
 防火の「ごりやく」ありと、付近の信仰を集めた小路の改修に際し、地藏を今の場所に祀った。地藏の前の小路「盃の世古」は、大仏山南麓に通ずる古道でもあった。



三木亭
 旅籠を営んでいた森下家の「森」という字は「木」が三つで成り立っていることから三木亭と名づけられた。

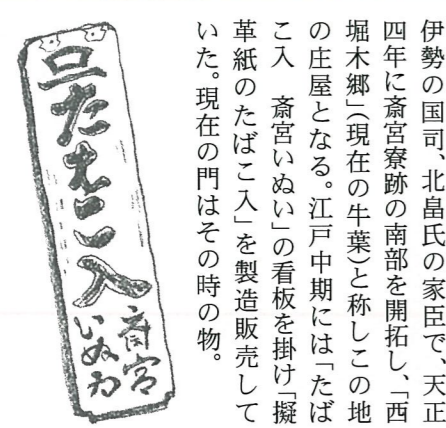
和泉屋
 江戸後期に永島本家より分家し「和泉屋」と号し酒造業、小間物店、旅籠を始め、例幣使や大名などの休憩所として利用され、又、江戸末期には、伊勢神宮の勅使三名と画家が避暑のため宿泊され、その時池村の三山と滝と五重塔と和泉屋の絵を描いてもらい、現在、軸にし保存している。



永島家
 伊勢の国司、北畠氏の家臣で、江戸時代に山田(伊勢市)よりこの地に移住してきて庄屋となる。

江戸後期に曾我蕭白(画家)が祓川の川岸で倒れていたのが当家で介抱した。その礼に襖絵四四点を画いてもらった。
 現在は三重県立美術館に所蔵されている。平成十年に「国の重要文化財」に指定された。又明治二年と十三年には明治天皇が伊勢神宮に行幸された時に往復とも寄られ休憩された。その時の部屋と菊の紋付きの「蹲踞」(ツクバイ)が残っている。

乾家
 伊勢の国司、北畠氏の家臣で、天正四年に齋宮跡の南部を開拓し、「西堀木郷」(現在の牛葉)と称しこの地の庄屋となる。江戸中期には「たばこ入 齋宮いぬい」の看板を掛け「擬革紙のたばこ入」を製造販売していた。現在の門はその時の物。



■お問い合わせ先
史跡齋宮跡・伊勢街道まちづくり会
 事務局
 (明和町役場 齋宮跡・文化観光課内)
 TEL 0596-52-7126
 「美し国おこし・三重」
 物語おこしプロジェクト
 地域イベント事業
 ※本ガイドマップのイラスト・写真・地図の無断転載を禁じます。

